

平成24年7月26日

日清製粉グループ 第1四半期連結決算、通期連結業績予想

第1四半期は売上高1,107億50百万円、経常利益62億79百万円。

[平成25年3月期第1四半期連結決算]

(株)日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）の平成25年3月期第1四半期につきまして、東日本大震災後の復興需要並びに政策効果等により景気は緩やかに回復しつつあるものの、デフレ環境の継続や欧州経済への懸念を背景に消費者の節約志向が継続する厳しい環境となりましたが、食品事業において消費者キャンペーンを展開する等積極的な販促活動による出荷拡大施策を実行するとともにグループを挙げたコスト削減に取り組みました。また、本年5月に福岡市の臨海地区において最新鋭の製粉工場の建設に着手するなど将来に向けたコスト競争力の強化に取り組んでおります。そのような中、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で15%引き下げられましたが、当社はそれを受け、本年7月10日に業務用小麦粉価格の改定を実施いたしました。

また、本年4月に長期的な成長を実現するため、トップライン（売上高）の拡大と海外事業の拡大を最優先戦略とする中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」をスタートいたしました。

この結果、第1四半期の業績は、売上高は1,107億50百万円（前年同期比102.0%）となりました。利益面では、食品事業において積極的に拡販費用を投入したこと、また、前年同期は東日本大震災後の需要の高まりなどから出荷が高水準であったこともあり、営業利益は51億56百万円（前年同期比75.9%）、経常利益は62億79百万円（前年同期比80.3%）、四半期純利益は38億71百万円（前年同期比85.0%）と前年を下回りましたが、当初見通しに沿った進捗となりました。

[平成25年3月期通期連結業績予想]

我が国経済は、引き続き、欧州債務危機に伴う影響が懸念され、また、デフレ環境及び厳しい雇用情勢を背景に消費者の低価格・節約志向の継続が見込まれるなど、当社グループを取巻く状況は厳しいことが予想されます。このような状況におきましても、当社は製粉を始め、各事業において安全な製品を安定的に供給するとともに、中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」で策定した諸施策に積極的に取り組んでまいります。

以上の結果、当年度の業績見通しにつきましては、当初の予想を据え置き、売上高4,591億円（前期比103.9%）、営業利益は235億円（前期比101.7%）、経常利益は263億円（前期比100.6%）、当期純利益は146億円（前期比109.6%）としております。

以 上